

平成30年12月15日発行

## 第25回 荒尾市在宅医療連携室事例検討会！

西原町すこやか調剤薬局 黒木 進

平成30年10月3日(水)第25回荒尾市在宅事業事例検討会を荒尾市医師会館にて開催しました。多数の医療福祉施設より48名の参加がありました。今回は薬剤師会より『薬局薬剤師の在宅業務』をテーマに、2題の発表を行いました。

まず、「高用量オピオイドを用いた終末期在宅患者の一例」では、持続皮下注を最期まで拒み、高容量オピオイド使用により疼痛コントロールが試みられた在宅末期がん患者の1日単位でのオピオイドローテーション、困難を極めた至適容量調整、副作用やQOLの問題に、患者の性格、思想とも向き合い真剣に取り組んだ訪問薬剤師の姿勢に、末期がん患者の疼痛管理のむつかしさについて改めて実感していただけたのではないのでしょうか。

続いて、「嚥下困難な患者さんに行った服薬支援について」と題し、訪問薬剤師が行う業務内容や役割について、実例として嚥下困難な在宅患者に行った服薬支援(医師への情報提供・処方提案、訪問看護師との情報共有、剤形の検討、調剤の工夫、服薬の工夫)により服薬状況が改善した症例を紹介し、説明を行いました。

薬局薬剤師の在宅業務について知っていただいた、理解を深めていただいたことで、多職種連携への訪問薬剤師の参画がこれまで以上に進むことが期待できた検討会でした。



## 第3回「地域における医療と介護のつながりを深める研修会」

日時：平成30年9月5日(水)19:00~21:00

場所：ホテルヴェルデ

テーマ：「心不全の地域連携」

≪第一部≫地域連携で治す心不全～荒尾地区での取り組み

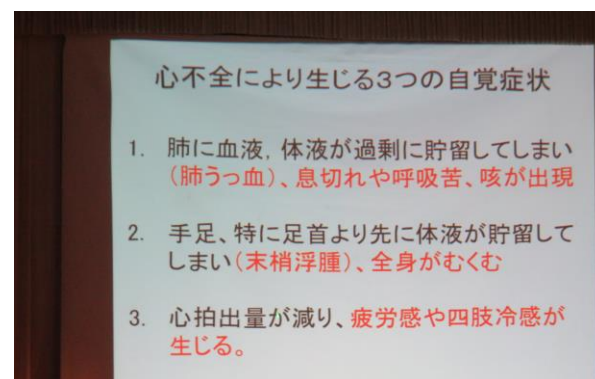
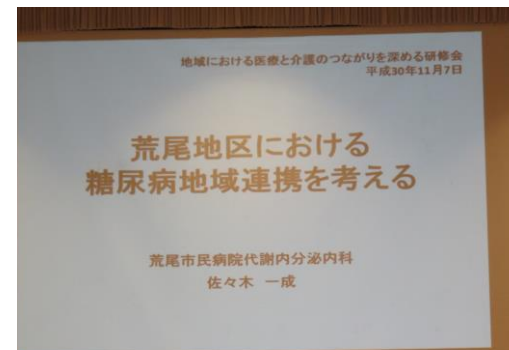
≪第二部≫高齢者心不全患者のみかた

講師：荒尾市民病院 副院長 梶原 一郎 先生

傍聴者：140名

【アンケートより】

- ・心不全について、原因から予防、発症様式など知識を深める事が出来た
- ・心不全の悪化を防ぎ、生活習慣の改善、維持を地域で連携して行う
- ・生活習慣の管理の大切さを痛感した
- ・心不全を予防する為の指導の大切さが理解出来た
- ・在宅でのアドヒアランスの重要性を学んだ
- ・医療職以外でも、解り易い講義内容だった
- ・基礎疾患の予防が大切と再認識出来た
- ・多職種との連携の大切さが解った
- ・在宅生活のフォローにメディカルが介入できる部分が多々ある
- ・心不全患者さんへの緩和ケアの啓発



## 第4回「地域における医療と介護のつながりを深める研修会」

日時：平成30年11月7日(水)19:00~21:00

場所：ホテルヴェルデ

テーマ：「糖尿病の地域連携」

≪第一部≫荒尾地区における糖尿病地域連携を考える

≪第二部≫糖尿病治療の注意点

講師：荒尾市民病院 内科診療部長兼代謝・内分泌内科部長

佐々木 一成 先生

傍聴者：108名

【アンケートより】

- ・基本的な内容から指導の実際など解り易かった
- ・糖尿病についても地域の連携についても解り易く説明されて良かった
- ・糖尿病患者の理解を深める事が出来た。所属する機関の役割を理解して、明日からの業務に活かしていきたい
- ・糖尿病になる原因、肥満・高血圧等の関係性が良く解りました。
- ・CDE-Kなど連携のシステムが理解出来て良かった
- ・解り易かった。ブルーサークルメニューをもっと知りたい
- ・新しい県内の糖尿病指導士の話しが聞けて良かったです。受けてみたいと思いました。

【今後の研修会日程】

第5回：脳卒中の再発予防における地域連携

日時：平成31年1月9日(水)

講師：荒尾市民病院 神経内科部長 大嶋 俊範 先生

第6回：地域における多職種・多科連携

日時：平成31年2月8日(金)

講師：西原クリニック 院長 中村 光成 先生

特別講演「認知症診療の基本」

講師：大阪大学大学院精神医学分野教授 池田 学 先生

荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお  
荒尾市宮内1092-18(荒尾市医師会敷地内)

TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605

<http://zaitaku.arao-med.or.jp>

ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください

担当：青木・荒巻